

## 現状分析を踏まえた「課題」とその「対応方向」について

### 1. 岩倉市の公共交通の現状実態からみた課題・問題点

#### ○鉄道・路線バスのカバー割合

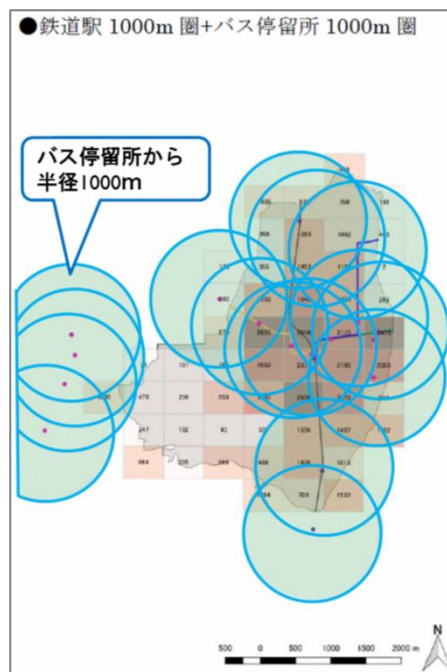
- ・鉄道駅 1000m・バス停留所 1000m圏の人口カバー率は 93%。岩倉市民の 9 割程度は、鉄道もしくは路線バスが利用できる場所に居住しており、岩倉市は、鉄道・路線バスが充実した地域と言える。
- ・鉄道駅・バス停留所のカバーエリア外は、都市計画法の市街化調整区域に指定された場所となっている。

※一部の交通空白地が存在。

#### ○デマンド型乗合タクシー事業の対応状況

- ・鉄道・路線バスが確保されており、他市よりも税投入額は少ない。
- ・デマンド型乗合タクシーの利用者数は増加していない。
- ・朝 9～10 時頃の便で、「予約不成立（先約があり利用できない）」が発生。
- ・一人当たり約 2,337 円の経費負担。収支率約 12%。タクシーよりも割高な事業構造となっている。

※交通空白地解消のため、デマンド型乗合タクシー事業で「市全域をカバー」するものの、使いたくても使えない時があること、割高な事業構造となっている課題がある。



### 2. 市民アンケート調査結果からみた課題・問題点

#### ○デマンド型乗合タクシーが認知されていない

- ・利用したことがあり、知っている人は、4.6%。

#### ○利用者が固定化されている傾向にある可能性がある

- ・登録している人は、市民の約 1 割に相当し、その内の利用状況としては、「利用している人」は 15.6%。登録していても、利用したことがない人が 41.1% 存在する。

#### ○デマンド型乗合タクシーに対する税投入は多すぎると評価

- ・「デマンド型乗合タクシー」に対する税投入額の評価としては、「多すぎる」「やや多すぎる」を選択した人が、過半数存在し、多くの市民が、税投入が多すぎだと指摘している。

#### ○市民は抑制すべきという意見が多い

- ・税投入を拡大すべきか、抑制すべきか、どちらの意見が多いのか確認すると、「税投入を拡大させるべき」との意見が 7.1% だったのに対し、「税投入を抑制させるべき」意見はあわせて 26.0% 存在した。税投入と交通のサービス水準のバランスについては、「抑制すべき」だとの意見が最も多いものとなる。

### 3. 地域公共交通を語る会の結果からみた課題・問題点

#### ○デマンド型乗合タクシーの認知度を向上

- ・存在・利用方法をもっと「PR」すべきとの指摘や、予約方法・乗り方講習会を実施すべきとの意見がある。

#### ○デマンド型乗合タクシーの事業改善方法アイデア

- ・運転手をボランティアにする、利用人数に応じた車種の選定・小型化、料金を安くする
- ・商業施設や駅に停留所を設ける、市外利用できるようにするなどのアイデアが出された。

#### ○デマンド型乗合タクシーの解決策＝「コミュニティバス・巡回バス」への転換意見

- ・わかりやすく利用者が制限されない「巡回バス」に事業転換すべきとの意見が認められた。
- ・事業費の増加、停留所まで遠い、便数が少ないなどの懸念も指摘されている。

#### ○デマンド型乗合タクシーの解決策＝「タクシー」への転換意見

- ・事業費の削減が見込める「タクシー」に事業転換すべきとの意見が認められた。
- ・玄関前まで利用できる、雨の日も心配がないなどの利点がある一方で、予約が面倒、利用者が限定されるなどの懸念も指摘されている。

### 4. 事業者ヒアリングでの指摘からみた課題・問題点

#### ○デマンド型乗合タクシーの事業改善

- ・利用者増の具体策として、午前中の1台増車、商業施設等の停留所増設、年齢制限の緩和などが考えられる。また、予約不成立の解消となるシステム改善の検討も可能。
- ・ただし、上記対応には、事業費の拡大、交通事業者との競合、事業目的との矛盾（弱者対策）といった課題を有する。

#### ○「定時定路線型バス」への転換意見

- ・予約の集中している時間帯の輸送力確保から小型バス車両の選択となり、1時間1便・2台体制のサービス水準では、現状より経費拡大する可能性が高い。
- ・既存の路線バスの利用者減が進行している中で、定時定路線型バスは、クリームスキミング・協議運賃設定などの問題を有する。

#### ○「タクシー」への転換意見

- ・江南市いこまいCARにおいて、当日予約ができない・料金がわかりにくい、利用が集中する時間帯での車両確保課題との指摘がある。
- ・その一方で、デマンド型乗合タクシーと同水準のサービス提供で、財政投入が軽減できるタクシーへの転換は理解できるとの意見があり、車両確保も問題なく確保できるとの指摘がある。事前予約・料金制度の十分な周知ができれば、課題をクリアできる可能性がある。

## 5. 岩倉市の現状実態・課題のとりまとめ

### <SWOT 分析による課題整理>

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	<p>&lt;強みS&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政区域はコンパクト。</li> <li>・鉄道、路線バスあり、交通空白地は市域の1割。</li> <li>・デマンド型乗合タクシーサービス・福祉タクシーチケット補助事業がある。</li> <li>・周辺市町と比較し財政負担はまだ少なく済んでいる。</li> </ul>	<p>&lt;弱みW&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動制約者向けサービスのデマンド型乗合タクシー事業が停滞（使いたいときに使えない、予約不成立、利用者横ばい、収支率1割程度）。</li> </ul>
外部環境	<p>&lt;機会O&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域交通ネットワークが維持できている（鉄道・路線バス）。</li> <li>・周辺自治体はコミュニティバス、タクシー型など手法は多様（小牧巡回バス・江南いこまいCAR等）。</li> <li>・バス・デマンド・タクシーを支えられる多様な民間交通事業者が存在。</li> </ul>	<p>&lt;脅威T&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・路線バスの利用者が減少し行政負担の発生・拡大が懸念される（将来的）。</li> </ul>

### <課題整理をふまえた対応方向案>

対応方向（案）
<p>○デマンド型乗合タクシーは、短期的な対応として、お金のかからないPRと簡易的な事業改善を施す。</p> <p>○デマンド型乗合タクシーを抜本的に見直すべきかを方向性を定め、市民の移動サービス環境の維持存続を目指す。</p>

## 6. 「対応方向（案）」の詳細設計において必要とされる協議事項

### ■論点1. 「デマンド型乗合タクシー」の事業改善で乗り切るべきか確認する

（事業継続を前提とした改善方法を選択する場合）

- 1) 利用促進のための対応＝PR・乗り方教室の実施などのすぐできることを対応
- 2) 商業施設や駅などの停留所の拡大・市外利用を行うべきか
- 3) 3台目を投入すべきか
- 4) 予約不成立を回避するシステムの見直しを行うべきか

### ■論点2. 「デマンド型乗合タクシー」から他の方法に切り替えるべきか確認する

（抜本的な対応としてその他手段を選択する場合）

- 1) コミュニティバス・巡回バスへの転換を選択すべきか
- 2) タクシー（チケット配布等）への転換を選択すべきか